

平成29年度事業報告書

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

学校法人 上宮学園

I.法人の概要

1.建学の精神

本学園の建学の精神は法然上人の理想を実現することであり、したがってその指導原理は上人の仏教精神にあることは言を俟たない。学園に関係するものは当然その本源を尋ねてひとえに法然上人に依るべきで、本学園が法然上人を学校祖と仰ぐゆえんである。学園の歴史はわずか120年であるが、その120年に至るまでの歴史は遥かに長いのである。

法然上人の理想とするところは校歌『月影』にこめられている。

「月影の いたらぬ里は なけれども 眺むる人の 心にぞ 澄む」

これは校祖法然上人の御作で、仏様の慈愛について述べておられるものである。仏の慈愛はさながら月光に似て、人の世のすみずみまでを照らす。しかしながら、月明かりを良いものだと感じ取ることのできる人にだけ月光の良さがわかるように、ああこれが仏の慈愛なのだ、と感じ取ることのできる人にだけ、慈悲の心は通じる。仏恩とはそのようなもの、と説いておられる。本学園ではこの月影の歌を校歌にしており、卒業生は校名一つないこの歌を校歌としている母校に、限りない母校愛と誇りを感じ巢立つのである。

この精神を具現化するために定められたものが、校訓であり、学順である。

校訓「正思明行」～正しく考え、明るく行動する～

何気ない言葉のようですが、邪悪なことを考えていて、立派なことがやれるわけがない。小さなことにくよくよして、大事業が達成できるわけがない。要は心のもちかた。他者が見て、この人にはついて行けると思われるような人物は、いつも考えていることが清く正しく、その言動もおのずと清明で、正々堂々としているものです。生徒諸君にそういう立派な人物になれという校祖の思いが、この四文字に込められている。

また上宮には昔から「学順」と呼ぶ教訓が存在する。

「一に掃除、二に勤行、三に学問」。この「掃除」はしばしば誤解されるのであるが、仏道ではもっと哲学的な意味をもち、俗世を浄土のごとく掃き清め、もって俗念を断つ。『往生要集』にもある、穢土を厭い浄土を求め、その心がけが第一で、つぎに己が身の力の限り努力して勉学に勤しめば、学問は自ずから身に備わり、その真価を發揮するという意味です。

以上のことはいずれも仏の叡智に根ざすものである。現代のようなコンピュータ万能の時代でも、いや、むしろ、このようなブラック・ボックスの伴うテクノロジーが人智を凌駕する時代に生きるからこそ、この叡智は大事なのである。いたずらに俗世の成功を求めず、人間ほんらいの生き方と「知の真価」を求める。上宮学園では法然上人のこの人道と仏の慈愛を多くの若者に分け与えて、120年の伝統を経てもなお脈々と受け継がれている。

2.法人の沿革

上宮高等学校は、明治23年（1890）浄土宗を母胎として創立された。以来120年以上の長い歴史を刻み、幾多の卒業生を送り出してきた。大阪で最も古い学校のひとつとして、永い歴史の中で培われてきた伝統を大切に、きめの細かい教育を推進している。

明治23年（1890年）大阪大教会支校を生玉大宝寺に開く

明治34年（1901年）学制変更により修業年限4年を5年に変更

明治39年（1906年）中学校と同等の認定

明治45年（1912年）財団法人上宮中学校設立許可

昭和4年（1929年）鉄筋本館竣工

昭和10年（1935年）定員1250名認可 鉄筋新校舎の建設案成る

昭和14年（1939年）新校舎（現2・3・4号館）竣工

昭和22年（1947年）新制上宮中学校発足

昭和23年（1948年）新制上宮高等学校発足

昭和26年（1951年）学校法人上宮学園へ組織変更認可

昭和36年（1961年）校祖750年遠忌式

昭和38年（1963年）高等学校志願者5259名に達す 5号館竣工

昭和42年（1967年）中学校の募集停止 太子町鉄骨校舎着工

昭和44年（1969年）太子町校舎高1授業開始

昭和49年（1974年）高2 2コース制実施

昭和54年（1979年）太子町鉄筋校舎ならびに合宿所竣工式

昭和56年（1981年）総合体育館竣工式 90周年記念式

昭和59年（1984年）上宮高等学校6号館竣工

昭和60年（1985年）上宮中学校復活開校（於、太子町）

上宮中学校体育館竣工、太子町学舎体育館竣工

昭和63年（1988年）上宮高等学校太子町学舎開設

平成1年（1989年）上宮高等学校太子町学舎校舎竣工

平成2年（1990年）創立100周年記念式典

平成3年（1991年）上宮高等学校太子町学舎が上宮太子高等学校として独立

平成5年（1993年）上宮中学校が上宮太子中学校へ変更

上宮中学校開校（於、天王寺）

上宮高等学校硬式野球部選抜野球大会初優勝

平成22年（2010年）上宮学園創立120周年記念式典

平成23年（2011年）校祖800年大遠忌

上宮中学校・高等学校、上宮太子中学校男女共学化

平成24年（2012年）上宮太子高等学校男女共学化

平成26年（2014年）上宮高等学校3年 平岡卓

冬季オリンピックスノーボードハーフパイプ銅メダル受賞式典

3. 設置学校（所在地・コース等）

i 上宮高等学校 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町3番16号
全日制 普通科 パワーコース・英数コース・プレップコース

ii 上宮太子高等学校 〒583-0995 大阪府南河内郡太子町太子1053
全日制 普通科 3カ年特進コース・3カ年総合進学コース

iii 上宮中学校 〒543-0037 大阪市天王寺区上之宮町3番16号
特進コース・アップコース

iv 上宮太子中学校 〒583-0995 大阪府南河内郡太子町太子1053
特進コース・総合進学コース

4. 校地・校舎面積

名 称	校地面積 m ²	校舎面積 m ²
上宮中学校・高等学校	47,934	22,906
上宮太子中学校・高等学校	30,338	12,436
合 計	78,272	35,342

5. 入学定員

名 称	学則定員（各3学年合計）
上宮高等学校	2,520
上宮太子高等学校	840
上宮中学校	480
上宮太子中学校	240
合 計	4,080

6. 生徒数・学級数

名 称	学年	生徒数	学級数
上宮高等学校	1 年	683	17
	2 年	673	18
	3 年	679	19
上宮太子高等学校	1 年	224	6
	2 年	186	5
	3 年	232	6
上宮中学校	1 年	78	2
	2 年	85	2
	3 年	110	3
上宮太子中学校	1 年	30	1
	2 年	24	1
	3 年	29	2
合計		3,033	82

7. 役員・評議員 平成29年4月1日現在

i 役員（定員 理事：7名、監事：2名）

理事7名（うち、理事長1名、理事6名）監事2名

理事長 田中裕史

理事 山縣真平（上宮中学校高等学校長）
 齊藤善之（上宮太子中学校高等学校長）
 甲斐龍二（上宮学園法人事務局長）
 末吉友一（評議員互選）
 田中信道（浄土宗僧侶）
 鶴野重雄（浄土宗・知恩院責任役員）

監 事 藤並光憲・小笹憲雄

ii 評議員（定員15名）

評議員14名（うち、理事兼任7名）

神田眞晃（卒業生） 川中光教（浄土宗僧侶）
 水谷川源昇（学識経験者）横倉廉幸（卒業生） 寺澤久弥（学識経験者）
 松井保（法人職員） 原田和成（法人職員）

8. 教職員

教職員数	教諭	常勤講師	非常勤講師	事務職員	合計
上宮高	90	1	55	20	166
上宮中	19	1	7	2	29
上宮太子高	39	0	26	3	68
上宮太子中	14	0	3	1	18
合計	162	2	91	26	281

II.事業の概要

平成28年7月より田中裕史理事長・学園長が就任し、学園の発展向上のために、安井良道前理事長・学園長の意思を継承し、「三本の柱」を掲げる。

一は教育力の向上。本学園の建学の精神である「正思明行」を礎として学力だけでなく、幅広い知識と教養をもち、自ら努力できる人物を育成し、またさらに、共生の精神と自立できる力を養い、世界的に活躍できる人物を育成する。教授法の改善を推進し、より質の高い教育を実践、学校満足度の向上をはかる。

二は健全な財政の構築。創立120有余年の歴史と伝統を基盤として、さらなる社会的信頼獲得のための運営をすすめ、確固たる学園ブランドを確立する。平成32年、創立130周年を迎えるにあたり、学園の整備計画の一つとして、上宮中学校・高等学校新校舎建設を決定、基本設計の段階に至る。そのための整備費等の財務計画を策定し、強固な財政基盤を確立する。

三は民主的な運営。競争力を持った教育環境の整備と社会変化に対応できる組織力の確立を目指す。理事長・校長の指導の下、教職員の意見を取り入れながら、各部署が連携して学校運営に取り組む。また、保護者会・同窓会・教育後援会等と学園とが連携し、社会に貢献できる事業を企画し推進する。

以上、基本精神「三本の柱」を中心に、学園の維持・発展のための事業運営に今後に向けても邁進する次第である。

1. 法人

第1回 日時 平成29年5月30日(火) 午後2時～午後4時30分

会場 上宮学園法人理事室

議案第1号 平成28年度事業報告について

議案第2号 平成28年度決算(案)について

議案第3号 平成29年度予算(案)について

議案第4号 その他について

第2回 日時 平成29年6月30日(金) 午後5時30分～午後7時30分

会場 上宮学園法人理事室

議案第1号 任期満了による役員改選について

第3回 日時 平成29年8月28日(月) 午後1時30分～午後3時30分

会場 上宮中学校高等学校 北応接室

議案第1号 新校舎建設に係る基本設計報告について

議案第2号 新校舎建設基本計画案(建設スケジュール)について

議案第3号 埋蔵文化財発掘調査の施工業者選定について

議案第4号 新校舎建設の施工業者入札に係る参加業者選出について

第4回 日時 平成29年12月12日(火) 午後0時30分～午後4時

会場 上宮学園法人理事室

議案第1号 新校舎建設に係る施工業者選定について

議案第2号 平成29年度第1回補正予算案について

議案第3号 平成29年度中間報告(財務面・教務面)について

第5回 日時 平成30年3月26日(月) 午後1時～午後3時

会場 上宮学園法人理事室

議案第1号 平成30年度事業計画について

議案第2号 平成30年度予算原案について

議案第3号 上宮中学校高等学校・上宮太子中学校高等学校の近況報告について

議案第4号 銀行融資の件・平成29年度補正予算について

議案第5号 来年度人事について

2.上宮高等学校

i 執行部関係【上宮中学共】(平成29年度)

校長 山縣真平

高校教頭 栗栖有文

中高一貫教頭 殿井鉄夫

高校教務部長 西岡信敬

中学教務部長 末金和夫

生活指導部長 福井 篤

進路指導部長 畑中 広

入試対策部長 北村吉隆

ii 広報関係

① 学校説明会

入学希望者を対象に9月から12月にかけて、月に一度、計4回の説明会を実施している。また今年度は、文化祭の時に個別相談ブースを設置。参加者数は、昨年度は前年比約マイナス100組となっている。今後以下の点について考えていかなければならない。

○説明会の時間設定

土曜日の午後3時から5時という時間をできれば午後2時から4時に実施したい。11月、12月の説明会(上宮高等学校を受験する可能性が高い参加者が多い説明会)では終了すると、外が暗くなってしまっていて、印象があまりよくないのではないかと思われる。また説明内容も1時間が妥当である。他校の説明会と比べれば明らかに長い。

○今後について

- ・生徒が前面に出るような説明会も考えていってもいいのではないだろうか。
- ・参加者数が非常に多いので難しいと思われるが、学校見学が出来れば良いと思う。
- ・保護者・卒業生の起用を考えてみるのも良いのではないか。

② 塾対象説明会

ここ数年はセラトン都ホテル大阪で7月第2金曜日に一度だけ実施している。今年度は、実際に塾の先生方が、進路指導を始める9月（夏休み後の五ツ木模試・駸々堂模試の結果が出る）に変更した。懇親会は実施せず、説明会終了後に個別相談コーナーを設けて対応している。説明会の時間が少し長いという声があり、調整に苦慮している。個別相談コーナーを利用されている塾の先生方が少ないので、個別相談コーナーのあり方も再考かと考える。

次年度以降もこの時期が良いのではないかとと思われる。新校舎が完成すれば、学校での説明会も可能かと思われる。保護者・卒業生の起用を考えてみるのも良いのではないか。

③ 私学展

毎年多数の来場者が見込まれる中で、上宮学園中学校・高等学校のブースを訪れる人数は共学になって増加の一途をたどっている（特に高等学校）。別会場にて上宮の概略を聞いてからブースでの説明を聞く方もおられれば、最初にブースに来て一通りの話を聞く方もおられるので、大変混乱した。今年度は、8月19日・20日だったので、管理職・各分掌部長の応援があり少しは混乱も解消したかと思う。次年度以降は、サポートという先生方がおられるのでより混乱も解消されると思われる。

④ 特筆すべき点

高校入試も決して楽観視できない状況である。共学とアクセスと制服とに助けられて集まっているといっても過言ではない。専願者の減少傾向（特にパワー、英数）、大阪府の就学支援が今後どうなるかわからないことを考え、広報のあり方を再度、検討しなければならない。

今年度は、中学入試に重点を置き管理職との本部への挨拶回りを実施したが、次年度以降高校入試関連の本部にも、管理職との挨拶回りを実施したい。

⑤ 入試関係

入試結果については

専願受験者 293名（パワー24名、英数 66名、プレップ 203名）

合格者 290名（パワー9名、英数 42名、プレップ 239名）

前年 287名（パワー43名、英数 54名、プレップ 190名）

合格者 280名（パワー10名、英数 38名、プレップ 232名）

とほぼ変わらない状況である。

併願受験者 1862名（パワー828名、英数 582名、プレップ 452名）

合格者 1754名（パワー313名、英数 649名、プレップ 792名）

前年 2167名（パワー915名、英数 691名、プレップ 561名）

合格者 2095 名（パワー245 名，英数 697 名，プレップ 1153 名）

と併願者数が約 300 名減少している。これも新校舎の収容人数と，今後の生徒数の減少を考えてプレップ・英数の併願のラインを実力テストで 10 点上げた。その結果が併願者の減少につながっているのではないかと考える。また，併願者の戻り率が約 16 パーセントと非常に高かった。新校舎への収容人員の関係や，今後高校入試においても現在の中学入試と同じような状況になると考えられるので，入学基準の再考（中学校実力考査・模擬試験）が必要ではないかと思われる。

Ⅲ. 進路関係

1. 大学等進学状況の概況

平成 29 年度卒業生（共学 5 期生）は 676 名（昨年度 673 名）。学年全体の現役合格率（大学・短期大学・専門学校合格）は 88.4%（昨年 89.9%、一昨年 91.2%）で昨年よりわずかに減。平成 29 年度卒業生の進学状況の概況は以下の 4 点に集約される。

- ① 国公立大学現役合格者の増加。 ②私立大学総合格数の減少。
- ③ 四年制大学進学者の減少。 ④専門学校進学者の増加。

とりわけ②③の減少については、文科省の進める「大学入学定員管理の厳格化」と「学部新設不認可基準の厳格化」による大・中規模大学の合格者数の絞り込みの影響を大きく受けたものと考えられる。（*詳細後述）

【平成 29 年度卒業生の進学等状況】

卒業生	4 年制大学	短期大学	専門学校	就職	その他*
676	525	8	52	5	86
割合	77.7%	1.2%	7.7%	0.7%	12.7%

*「就職者」内訳：N T T 西日本・陸上自衛隊・家業を継ぐ各 1 名、縁故就職 2 名

*「その他」は進学準備・留学準備等

2. 大学別合格者について

1) 国公立大学合格者 33名 (昨年度 33名)

*国公立大学合格者人数は全て「現役・過年度生を合わせた大学別実人数」である

①国立大 18名 (現役 15 過年度 3) ②公立大 15名 (現役 13 過年度 2)

【平成 27 年度～29 年度の国公立大学合格状況 比較】

*現役・過年度生を合わせた大学別合格者実人数

国公立大学合格者								
H29 年度			H28 年度			H27 年度		
順位	大学名	人数	順位	大学名	人数	順位	大学名	人数
1	和歌山大	8	1	和歌山大	5	1	大阪府立大	5
2	大阪市立大	5	2	大阪教育大	4	2	和歌山大	3
3	大阪大	2		大阪市立大	4	3	大阪教育大	2
	奈良女子大	2	4	大阪府立大	3		高知大	2
	大阪府立大	2	5	大阪大	2		滋賀県立大	2
6	筑波大	1	6	京都教育大	1		兵庫県立大	2
	東京工業大	1		広島大	1	7	東京外国語大	1
	大阪教育大	1		岡山大	1		神戸大	1
	愛媛大	1		兵庫県立大	1		広島大	1
	京都府立大 等	1		京都工繊大 等	1		神戸市看護大 等	1
	合計実人数	33		合計実人数	33		合計実人数	27
国公立型クラス人数		140	国公立型クラス人数		133	国公立型クラス人数		123

2) 私立4年制大学合格者 786名 (現役694 過年度92)

* (昨年度881名 現役775 過年度106)

私立大学現役合格者 *現役生のみでの大学別合格実人数で比較								
H29年度			H28年度			H27年度		
卒業生数 676名			卒業生数 673名			卒業生数 703名		
1	近畿大	68人	1	近畿大	95人	1	近畿大	92人
2	摂南大	63	2	関西大	71	2	摂南大	62
3	関西大	56	3	摂南大	54	3	関西大	55
4	龍谷大	54	4	龍谷大	44	4	龍谷大	46
5	桃山学院大	30	5	大阪経済大	30	5	桃山学院大	28
6	大阪工業大	22	6	甲南大	25	6	大阪経済大	23
7	大阪経済大	21		桃山学院大	25		関西外国語大	23
8	畿央大	19	8	同志社大	22		追手門学院	23
9	甲南大	17	9	大阪工大	19	9	京都産業大	20
10	同志社大	16	10	大阪大谷大	17	10	佛教大	19
11	京都産業大	15		帝塚山大学	17	11	同志社大	17
	関西学院大	15	12	立命館大	16	12	甲南大	16
13	立命館大	14		追手門学院大	16	13	関西学院大	15
	追手門学院大	14	14	甲南女子大	15	14	畿央大	14
15	大阪電気通信大	13		武庫川女子大	15		大阪産業大	14
	関西外国語大	13	16	京都産業大	14		武庫川女子大	14
	武庫川女子大	13	17	関西学院大	13		立命館大	14
18	同志社女子大	11		阪南大	13	18	甲南女子大	13
19	大阪産業大	10	19	神戸女学院大	12	19	四天王寺大	12
	大阪樟蔭女子大	10		佛教大	12	20	大阪工業大	11
	阪南大	10						
	合計実人数	694		合計実人数	775		合計実人数	757

私立大学入試合格者は「大学入学定員管理の厳格化」と「学部新設不認可基準の厳格化」の影響を大きく受けて減少。本校では関西大学と近畿大学の合格者数に大きな影響が現れた。

(*下の数字：本校の平成29年合格実人数→平成30年合格実人数の変化)

関西大学 71→56 関西学院大学 13→15 同志社大学 22→16 立命館大学 16→14

京都産業大学 14→15 近畿大学 95→68 甲南大学 25→17 龍谷大学 44→54

【参考】

「関西四私大」の2019年度スタンダード入試(最も定員の多い前期入試)での志願者・合格者状況

関西大学 志願者：6395人増加 →合格者：1784人減少

関西学院大学 志願者：49人減少 →合格者：1310人減少

同志社大学 志願者：2972人増加 →合格者：415人減少

立命館大学 志願者：2666 人増加 →合格者：1179 人減少

【参考】

《文科省による、2016 年度以降の大規模大学の定員超過に対する補助金不交付措置の厳格化》

2015 年度以前：入学定員 8,000 人以上の大学→超過 1.2 倍以上で×

2016 年度：1.17 倍以上で×

2017 年度：1.14 倍以上で×

2018 年度：1.10 倍以上で× 4 年間で最も厳しくなった。

《学部新設不認可基準の厳格化》

例：現在のある学部の入学定員が 300 人の場合。2019 年度新設なら 2015 年度～2018 年度の 4 年間の入学定員平均充足率が 1.05 倍以上で不認可となる。法人全体の全学部が達成しないとだめという、非常に厳しい条件が付いている。

3) 私立短期大学合格者 11 名 (現役 11 過年度 0)

* (昨年度 16 名 現役 16 過年度 0)

私立短期大学合格者 *合格者であり進学者ではない		
H29 年度	H28 年度	H27 年度
11	16	19
うち現役 11	16	19

4) 専門学校合格者 60 名 (現役 56 過年度 4)

* (昨年度 37 名 現役 35 過年度 2)

専門学校合格者 *合格者であり進学者ではない		
H29 年度	H28 年度	H27 年度
60	37	51
うち現役 56	35	48

3. 進学・勉学に関するその他の新規事業

1) 通常の補講習とは別に、希望生徒対象に放課後 17 時 15 分から 19 時 45 分に実施している高 2 生対象「大学合格準備講座」・高 3 生対象「大学合格講座」が開講 4 年目となった。新規事業として平成 30 年度 4 月から中学 3 年生対象に「高校進学準備講座」(英語・数学)を、9 月から高校 1 年生対象に「大学合格基礎講座」(英語・数学・国語)を開講する。また講座全体の名称を「Uゼミ」とする。

2) 文科省のすすめる大学入試改革における「大学入試における英語外部検定試験の導入」で、3 月に認可された「実用英語技能検定 (英検)」(4 技能型)に対応するべく土曜日放課後開講の「英語関連講座」をリニューアルした。

①従来の「英検対策講座」を Reading と Writing 対策を中心に行う。中学 1 年生から高校 3 年生を対象に「3・4 級」から「準 1 級」までの講座を年間 3 回開講する。

②新たに「オンライン英会話」を導入しListeningとSpeaking対策とする。

②については「㈱スクールTOMAS」と契約を結び、ネット回線を使って英会話および英検対策のマンツーマン授業を行う。

- 3) 高3生徒のうち「連携・指定校制推薦入試」合格者の希望生徒対象に、あらたに「エンパワーメントプログラム」を実施した。これは、㈱ISAの提供するプログラムで、グループワークと英語使用100%の授業を組み合わせた3日間のアクティブラーニング型演習である。生徒を4から5人のグループに分け、そこへ日本の難関大学に留学している外国人留学生1名がリーダーとして付き、様々なテーマについてグループ内で議論し、最後に一人ひとりの生徒が自分の将来について英語でプレゼンを行うというものである。このプログラムは文科省の提示する「学力の3要素」の「知識・技能」と、それに基づいた「思考力・判断力・表現力」、および「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」を同時に育成するものであり、平成30年度からはこれを「連携・指定校制推薦入試」合格者の大学入学前特別授業として全員が受講することに決まった。

v 施設整備関係

本年度も建物内の補修・改修工事を中心に実施しました。新校舎建築工事に伴う埋蔵文化財調査も始まり残存校舎も確定しましたので、撤去予定の校舎棟等とは施工内容に差異を付け、残存校舎には費用を割いたものとなりました。

又、中学校関係の工事と新校舎建築工事に伴う関係工事(下記3)を実施しました。

※主な工事

- 1ー総合体育館屋上全面防止工事
- 2ー7号館が中学校に比重を置いた校舎となったため、必要な改修工事を実施
- 3ー新校舎建築工事に係る南グラウンドクラブ倉庫の撤去に伴うクラブ倉庫の設置

vi 教務関係

【教学関係】

パワー・英数・特進コースにおける3年次のコース選択先を、国公立Ⅰ型(文系、理系)、Ⅱ型(文系、理系)、Ⅲ型(文系)と定め、教育課程を作成したが、現状を踏まえた上で調整する予定である。文部科学省が平成31年度入試から活用を検討している「JAPAN e-Portfolio」(※参照)に対応すべく、「上宮ルーブリック」を1年生に導入し、活用を始めた。また、各教科におけるルーブリック作成に着手したところである。

※生徒自身がデジタルデータとして記録した高校時代の主体的な活動(生徒会活動、部活動、ボランティア活動、留学経験、民間のコンクールでの成績等)を、大学が参照し、受験生の入試試験における合否判定に利用できるものである。

入学考査出願に際し、WEBによる出願方法を導入した。中学校・受験生・保護者に適切に対応できたため、受験生の90%程度が利用した。そのため、従来、煩雑で手間の掛かった業務が著しく省力化できた。問題点も些少であったので、今後も継続して利用する予定である。

広報戦略係を新設し、学園創立130周年及び新校舎建築を、130周年記念ロゴの作成とともに外部に対してアピールし、また、学園中学校の設立を中心に広報活動を展開した。ID係を新設し、新校舎におけるICT化に向けての調査・研究・実践を始めた。

気象予報の精密化に伴い、現行の特別警報・暴風警報に対する対応を再検討した。

【大学等受験対策】

近年、他校でも取り組みが多い校内予備校への取り組みとして、2年生の1、2学期に大学合格準備講座、2年生の3学期と3年生の1、2学期に大学合格講座を実施した。講師は本校勤務の講師の中で予備校との兼任の先生方と予備校の講師の先生方からなり、平日午後5時15分の終業後に2時限（1コマ70分ずつ）の時間割配当で、有料講習をおこなうものであり、生徒の進路保障からも大きな反響が有り、生徒保護からも大きな反響があり、実際の大学入試結果に好影響を与えたと考えられ、30年度からは1年生の2、3学期に大学合格基礎講座の開講を予定している。また、今後大学受験においてさらに重要になる英検合格講座（70分×9回）を年3回実施される試験に合わせて開講した。

【勉学旅行・修学旅行】

11月に、パワーコースでは、米国・ニューヨーク・ボストン方面に7泊9日の日程で勉学旅行を参加者40名にて実施した。また、同月、プレップ・英数コースも豪州・モートン島・ゴールドコースト方面に6泊7日の日程で修学旅行を参加者596名にて実施した。

【語学研修】

ますます、重要となる英語教育の充実に向けて、以下の語学研修等を実施し、英語に触れる機会を増やした。

8月 カナダ語学研修参加者10名

8月 フィリピン・セブ島語学研修参加者11名

7月 サマーイングリッシュプログラム参加者22名

9月～ オンライン英会話参加者18名

2月 進学先が決定した3年生対象のカナダ・バンクーバー語学研修参加者1名

2月 エンパワーメントプログラム参加者12名

3月 オーストラリア語学研修参加者7名

【高校入試関連】

4回の入試説明会及び文化祭の際に行った個別相談会の参加者総数は、生徒2336名（昨年度比-29名）、保護者等1949名（+12名）、合計4285名（-17名）となり、例年通りの参加者を数えたが、今後も他校の例も参考にしながら、生徒・保護者にさらにアピールできる内容になるよう検討していく。詳細は、入試対策部からの報告に譲るが、入学考査受験者数2155名（昨年度比-296名）入学手続き者568名（男子323名、女子245名 内部進学者を除く）であった。

3. 上宮太子高等学校

i 執行部関係

校長	齊藤 善之	生徒指導部長	米田 文昭
教頭	寺澤 久弥	進路指導部長	漁野 篤史
高校教務部長	渕 昭嘉	入試対策部長	宮本 卓弥
中学教務部長	佐々木裕司		

ii 広報関係

① 学校説明会等行事

	実施日	参加組数	増減
オープンキャンパス	9月 9日(土)	251組	+38組
第1回入試説明会	10月14日(土)	79組	+44組
第2回入試説明会	11月 5日(日)	123組	-37組
UTフェスタ	11月18日(土)	57組	今年度より実施
第3回入試説明会	12月 9日(土)	191組	-8組
直前対策入試説明会	12月17日(日)	240組	-29組
合計		941組	+8組

○総評

- ・実施時期や内容においては特別な問題はない。説明会においては、各教科からの説明内容も充実したものとなり、受験生の反応もよかった。
- ・生徒会主催のUTフェスタというイベントを今年度から実施した。軽音楽部のライブやダンス部のパフォーマンス、生徒による学校説明など内容はよかった。しかし、案内期間が短かったり設定した日時が地区の中学生の参観日に当たっていたなどの理由から予想した組数(約100組)の参加はなかった。
- ・参加組数合計において昨年よりも増加したのはよかった。ただし、2学期後半において昨年に比べて減少傾向にあった。入試ラインを上げていることもあり、受験を考えていた受験生が受験校を変更したことも理由の一つと考えられる。

○今後について

- ・イベントの回数や実施時期については概ね継承していく方向である。
- ・内容についても年々充実したものになっているが更なる工夫を凝らしたい。
- ・近年、情報のICT化が進んでいる。様々なイベントの案内をICTツール(Web、アプリ)をうまく活用し、参加組数を増やしていく方向である。

② 塾対象説明会

	実施日	参加塾数	増減
塾対象説明会	9月26日(火)	155塾	+2塾

○総評

- ・9月26日(火)にスイスホテルで実施した。通常は7月に学校で2日型で実施している。3年に1度のペースで案内塾の裾野を広げるためにホテルにて実施している。今年度は前回実施から2年となるが、中学校の統合を受け、上宮との実施時期を合わせることで、学園改革を前面に押し出すために格式のあるホテルでの実施となった。
- ・155塾175名の参加であった。昨年に比べ2組増加した。参加塾の数的にはほぼ変わりはないが、参加された塾がいつもとは違っている。上宮太子を御最前にしてくださる塾は学校や生徒を見たいとの意見が多く、ホテルでの実施なら参加を見送るといった意見が多くあった。しかしながら、その分新規開拓できた塾も多くあったので、今後もこのペースでホテルでの実施を行いたい。
- ・本校の売りである生徒の様子を少しでも多く伝えるため、学校紹介VTRを上映したり、数名の生徒を登場させてスピーチを行った。塾の先生方からの反応はとてもよかった。説明会のアンケートにおいても生徒をお褒めいただく言葉が多かった。
- ・参加塾に対しアンケートを実施し、説明会の内容や学校に対するご意見を多数頂戴した。満足度は高く今後も上宮太子を勧めたいとの意見が多かった。

○今後について

- ・学校とホテルでの実施場所の違いから内容についてはその都度変更していく。塾の先生からの意見として「生徒や学校の様子を見たい」との声が多いので、生徒をうまく登場させる内容を今後も盛り込んでいきたい。
- ・実施時期については、学園の状況や受験市場の情勢を鑑み、臨機に対応していく。

③ 私学展

	実施日	参加塾数	増減
私学展	8月19日(土)・20日(日)	169組	-40組

○総評

- ・数字的には昨年よりも減少した。参加組数は増加傾向にあったが、今年度は減少した。減少した特別な理由は見当たらないが、しいて言えばブースの位置が影響したのではないかとと思われる。この時期の受験生は受験校を決め打ちで各校のブースに座ることは少ない。会場の全体の中で目に留まった学校のブースに座ることが多い。今回は入り口近くという位置だったので、一通り会場を見たいという受験生からは通過されることが多かった。ただし、パンフレットの配布はしやすかったため、昨年よりも1.5倍配布することはできた。
- ・私学展はブースの見目がかなり集客に影響する。統一感のあるブースを作ったのでブースに座らなくとも受験生の目には上宮太子が印象に残ったのではないかとと思われる。他校からの視察もあった。

○今後について

- ・より目に留まりやすいブースを作ることが大切であるので、次年度はICTツールをさらに活用したい。
- ・資料コーナーを訪れる受験生が多いので、資料コーナーからブースに導く方法を検討する。
- ・私学展の参加者は多いが、その後の学校実施のイベントへのつながりは多くない。私学展参加者へのその後のアプローチを効果的に行い、学校へ足を運んでもらう仕組みをつくる。

iii 進路関係

【大学合格者数】

卒業者数が10名程減少したが、全体の合格者数は20名ほど増加した。
今年度のべ451名（卒業者数231名）、昨年度のべ434名（卒業者数243名）

○国公立大学

昨年度入試と比較して、現役生と過年度生を合わせた合格者数は倍増した。

国公立大学合格者数：

今年度14名（現役11名・過年度3名）、昨年度7名（現役6名・過年度1名）

当初目標は現役12名以上であった。目標と同程度の結果を出すことができ、おおむね満足できる結果であったと言える。

○私立大学（関西8私大）

昨年度入試と比較して、関関同立の合格者数は14名増加し、産近甲龍の合格者数は3名増加した。その結果、関西8私大合わせた合格者数は17名増加した。

昨年度に引き続き、今春の卒業生も公募推薦、一般入試に挑戦する生徒が多く、また、後期試験まで受験する傾向が強くなった。

関西8私大合格者数

今年度111名（関西14名・関西学院3名・同志社7名・立命館2名・京産5名・近畿46名
甲南7名・龍谷27名）

昨年度94名（関西9名・同志社2名・立命館1名・京産15名・近畿34名・甲南11名
龍谷22名）

○28期生の進学状況（卒業者数231名）

4年制（6年制）大学進学者数…188名 短期大学・短期大学部進学者数…8名

専門学校進学者数…20名 就職…1名 進路未決定…14名

（内訳：総合進学文系7名、総合進学理系3名、特進文系3名、特進理系1名）

現役合格率97.8%（昨年度94.5%）、現役進学率93.9%（昨年度91.6%）

連携・指定校推薦入試枠574名分のうち、受験者数24名（総合進学コース在籍者の12.1%）

なお、昨年度と比較すると、連携・指定校推薦入試利用者（受験者）数は3名増加。

昨年度は関関同立・産近甲龍を含めた連携・指定校推薦入試枠 546 名分中、利用者（受験者）数は 21 名（総合進学コース在籍者の 10.9%）

総合進学コース在籍生徒のうち、

- 2 名（実数）が関西大学に一般入試で合格。
- 1 名（実数）が関西学院大学に一般入試で合格。
- 1 名（実数）が同志社大学に一般入試で合格。
- 3 名（実数）が京都産業大学に公募制推薦・一般入試で合格。
- 8 名（実数）が近畿大学に公募制推薦・一般入試で合格。
- 1 名（実数）が甲南大学に一般入試で合格
- 4 名（実数）が龍谷大学に公募制推薦・一般入試で合格。

（昨年度実績）総合進学コース在籍生徒のうち、

- 1 名（実数）が関西大学に一般入試で合格。
- 4 名（実数）が京都産業大学に公募制推薦・一般入試で合格。
- 5 名（実数）が近畿大学に公募制推薦・一般入試で合格。
- 2 名（実数）が甲南大学に公募制推薦入試で合格
- 7 名（実数）が龍谷大学に公募制推薦・一般入試で合格。

【進路指導方針】

入学当初より、進路指導 LHR を通して、大学・学部・学科について調べ、できるだけ早い時期に目標設定を行うように指導している。総合進学コースの生徒にも、センター試験の受験、公募制推薦入試や一般入試を中心に大学進学をめざすように指導している。生徒の将来とともに、上宮太子高等学校の将来を見据えた取り組みを、今後も継続していきたい。

○次年度の取り組む内容（重点目標）

- ・安易な考えによる AO・指定校推薦入試からの脱却（総合進学全体の 20%未満）
- ・家庭学習の推進
- ・模試の事前・事後指導
- ・Classi を活用したメタ認知力の育成

iv 入試関係

	コース	募集人員	専併	受験者数	合格者数	入学者数
	特進	35名	専願	29名	23名	23名
			併願	229名	175名	22名
	総合進学	105名	専願	102名	106名 廻し6名含む	106名
			併願	118名	159名 廻し50名含む	25名
1 ・ 5 次	特進	若干名	専願	0名	0名	0名
	総合進学			3名	3名	3名
合計				48	466名	179名

○総評

- ・受験者数は27名の減少であった。特進の受験者数は横ばいであるが、総合進学コースの併願において減少が見られる。総合進学コースの専願者は一見横ばいに見えるが、野球部を志望しての受験生が40名近くおり、昨年の倍となっている。野球部以外の受験生は実質減少している。
- ・専願者数が大阪府の1.5次入試実施の規定内に収まったため実施することができ、3名の受験者入学者を得ることができた。
- ・併願戻り率は、特進13%、総合進学16%、全体で14%であり例年並みである。
- ・南河内地区、中河内地区、奈良県南部という上宮太子の通学エリアにおいての人口減少が著しい。また、今年度は学校のレベルアップのために入試基準も上げている（各コース偏差値1ポイント、実力テスト10点）。この状況中で、受験生が27名減少に歩留まりしたのはよかった。進学実績の向上や公立中学校における上宮太子の認知度が上がってきたことが理由である。

○今後について

- ・受験生のレベルが上がってきた。人数確保も視野に入れながらもさらに入試基準を上げ学校のレベルアップにつなげる方向である。
- ・受験生を増加させるために学校の魅力を創出するとともに効果的に伝える必要がある。現在の上宮太子は、進学実績は向上し、生徒は生き生きとした学校生活を送っている。これらを効果的に伝える工夫を行うことで上宮太子が認知され、増加につながると考える。市場の動向をにらみながら、柔軟かつ積極的に広報展開していく方針である。

v 施設等整備関係

- ・中学普通教室 ICT 教育設備整備（インタラクティブプロジェクター、ホワイトボード、ノート PC、書画カメラ）
- ・普通教室棟北側トイレ改修工事（2F 男性用、3F 女性用）
- ・懸垂幕掲出枠の設置（普通教室棟スロープ南側土手上：旧浄化槽付近）
- ・卒業記念品として大型設備時計を玄関車寄せ上の校舎壁面に設置
- ・普通教室カーテンクリーニング。（111～116、121～126の12教室）

vi 教務関係

① 学校評価

各部署の実施計画と授業アンケートを中心に学校評価を行った。各部署については、4月までに今年度の年間計画と取り組む内容を、10月末までに中間評価、3月末までに年度末評価を学校評価委員会に提出し、その都度校長より指導助言をいただく形で実施した。授業アンケートについては、11月に実施し、その結果を各教員がリフレクションペーパーにまとめ、その後の授業に反映させるように行った。

前年度の総括の学校関係者評価委員会は7月に実施した。

② 高大連携

○現状について

関西大学、近畿大学、龍谷大学、帝塚山学院大学、大阪樟蔭女子大学の5大学と高大連携協定を締結しており、それぞれの大学から特別推薦入試枠をいただいている。また、近畿大学経済学部にて、数学のリメディアル教育担当教員を1名派遣している。

○今後について

いくつかの大学から高大連携協定に関する話を頂戴している。しかし、生徒の希望進路等を確認しつつ、本校としても長期間にわたり、責任のある関係を保つことができる大学に絞って、今後の高大連携を考える。

③ 教職員研修会

昨今の私学を取り巻く厳しい環境のなかで、私立学校として、学校祖・法然上人の仏教精神に基づく『建学の精神』を掲げる上宮太子中学校・高等学校。

そこで日々働く私たち教職員が、「意識の改革レベルの向上」・「私学人としての現状認識と共通理解の醸成」・「他校の情報収集と対策の研究」等を目的に、機会を求めて共に研鑽を積むことを重ねている。

教職員一人ひとりが、そして、教職員総体として、「生徒・保護者のため」・「所属する職場組織のため」何が出来るか、どのように貢献できるかという視点で、基本的には、各学期1回、年度に計3回、全教職員を対象に外部講師を招き、教職員研修を実施した。教職員の当事者意識の確立、研究心の錬磨、技量・モチベーション向上に繋げている。

<1学期・7月5日>

- ・テーマ「教育コーチング ベーシック講座」

～自立した生徒を養成するために～

講師：日本青少年育成協会 主任研究員

成基総研 コーチング室 室長

大村 伸介氏（上宮太子高等学校 卒業生（3期生））

<2学期・12月6日>

- ・テーマ「教師力を高める教育コーチング」

～教師の質問力、承認力を高める～

講師：日本青少年育成協会 主任研究員

成基総研 コーチング室 室長

大村 伸介氏

<3学期・3月6日>

- ・テーマ「世の中の変化に対して、企業が大切にしていること」

～異業種である企業研修担当から見た求められる人物像～

講師：(株)リクルート マーケティングパートナーズ

まなび事業本部 高校支援統括部 部長

梶原 博史氏

④ 特筆すべき行事

- ・【海外語学研修】

〈オーストラリア語学研修〉3月末実施 対象学年 中2～高2 希望制

希望制語学力の向上および多文化理解を目的としたホームステイ型の研修。

実習期間は2週間で、生徒満足度95%と非常に高く、その結果、リピート率も高い。

（平成29年度 参加者17名）

〈イギリス語学研修（ACEプログラム）〉7月中旬実施 対象学年 中3～高3 希望制

資格あり国際感覚の習得、プレゼンテーション

スキル・チームワークやリーダーシップスキルの育成の向上を目的としたパブリックスクールでの寮滞在型の研修。参加資格は英検2級1次試験合格以上。クリアした生徒は、学園か

ら一部奨励金を受け、学園・学校の代表としての誇りをもって、研修に参加する。

参加前には10時間以上のネイティブ講習会等を実施する。

(平成29年度 テロの問題により見送り)

〈ニュージーランド ターム留学〉7月下旬～9月上旬 高校生 希望制

9週間の海外滞在を通して、親元を離れ、現地校での授業はもちろん、世界をより深く知る機会になると同時に、日本のことや自分自身のことについても改めて考えることが出来る素晴らしい機会となることを目的としている。

平成30年7月21日(土)～9月23日(日)実施予定。

英語試験および英語での面接審査にて派遣を認められた高1生1名が現在、研修を続けている。

・【語学研修】

〈イングリッシュワークショップ〉

特別授業期間を利用し、外部講師を活用して高校1・2年生の各々の学年で全員を対象に英会話講習会を実施している。少人数のグループにネイティブの講師1名が付く。

4コマ(1コマ45分)を講師がローテーションをすることにより、各コマの雰囲気が変わり充実した講習会となっている。また、中学1・2年生の各々の学年で全員を対象に英会話講習に特化した集中講座を実施した。

・【修学旅行】

平成29年12月17日(日)から12月22日(金)の4泊6日で、高2生183名が、オーストラリア ケアンズで、ファームステイでの国際交流を中心とした修学旅行を実施した。

また、中3生が9月28日(木)から10月2日(月)4泊6日で、29名が、異文化交流の歴史をもつ五島列島の小値賀島での民泊体験や、APU(立命館アジア太平洋大学)での留学生との国際交流を内容とした修学旅行を実施した。

・【聖徳書道展】

平成29年度で第10回記念の実施となる上宮太子主催の文化活動である。伝統文化の発展と、聖徳太子ゆかりの地にある学校として、“以和為貴”の精神を理解・継承し、「和」の心を広め、育成することを目的として開催している。例年、総本山知恩院、太子町・太子町教育委員会、毎日新聞社の後援をいただいて、平成29年度は、小中高生及び一般の方々から5,800点を越える応募作品を得た。10月8日(日)・9日(月・祝)両日に、上宮太子高等学校を会場として、入賞・入選作品を掲示、他の作品も展示し、第2日には入賞作品の表彰式も実施した。毎年、家族連れ等、多くの来校者を迎え、結果、学園・学校を広く知らしめる契機としても意義ある、上宮太子の一大行事となっている。

vii 課外活動関係

① 課外活動のあり方について

運動部：13、文化部：11、同好会：1（平成29年3月末現在）

中高でおおよそ7割の生徒がクラブに所属し、それぞれのクラブの特色に応じて活動している。各クラブにおいて目標を達成する上の過程を大切に、礼儀や挨拶などを含めた人間教育に重点を置いた指導をめざし、学校全体の活性化をねらいとしている。

② 部活動の主な成績

書道部 第52回高野山競書大会 金剛峯寺賞 受賞

(中学3年 平川 汐南、高校1年平川 香恋)

書写書道全国大会「学生書き初め展覧会」 文部科学大臣賞(最高賞) 受賞

(中学3年 平川 汐南)

軽音楽部 第10回全国高等学校「軽音フェスティバル」 特別賞 受賞

陸上競技部 第16回阪名和高等学校陸上選手権 4×400mリレー

各代表24チーム中 第8位

卓球部 近畿中学校卓球大会 出場 (中学3年 神谷 健太)

大阪私立中学校総合体育大会 卓球の部 優勝 (中学3年 神谷 健太)

美術部 第66回 大阪私学美術展 中学の部 優秀賞 受賞

硬式野球部 春季近畿地区高等学校野球大会大阪府予選 第4位

男子硬式テニス部 大阪高等学校秋季テニス大会 団体 準々決勝 進出

ラグビー部 第97回全国高等学校ラグビーフットボール大会 大阪府予選

第1地区 準々決勝 進出

吹奏楽部 第28回管弦打楽器ソロコンテスト 南河内地区大会 3位(金賞)

(高校2年 芝 奈月)

viii 防災対策関係

大規模災害が発生した場合は、帰宅困難者によるさらなる混乱を防ぐため、生徒をすぐには帰宅させず、学校内で待機させるという考え方が主流になっている。そのため、学校側は、生徒が最低2日間、学校内で寝泊まりできる備えが必要となる。

また、学校の復旧だけでなく、地域の帰宅困難者支援、一時滞在者の受け入れ、避難所への物資の提供など、学校にできる被災者支援を行うことが、本校の信用を高め、地域貢献に繋がる。

(備蓄品内容 一人分)

朝食パン2日分 昼・夜 アルファ米2日分 飲料水500ml 6本

ミルクビスケット・クラッカー 保存用水2ℓ 900本 レスキューシート

(救助・救命KIT)、 高校校舎 1セット 中学校舎 1セット

ix その他

生徒会活動の一環として、上宮祭における献血活動に力を入れている。日本赤十字社より講師を招き、全生徒に対して献血に関する事前学習を行い、上宮祭当日まで呼びかけや、研究発表を通してたくさんの生徒、来校者に協力していただいている。

4. 上宮中学校

i 学校統合

- ① 平成 30 年度に上宮中学校と上宮太子中学校が統合することになり、理事長・事務局長・天王寺、太子両校の校長教頭・教務部長・入試対策部長をはじめとする関係先生方の会議を重ね、「上宮学園中学校」の学校概要をまとめていった。

特進コースの名称は従来通りであるが、アップコースをGコースと名称変更した。特進コースからは両高等学校の特進コースへの進学が可能であり、Gコースからは上宮高等学校の六か年プレップコースおよび上宮太子高等学校の総合進学コースへの進学を可能とした。進学時のコース変更についても基準を定めた。

- ② 「上宮学園中学校」の学校概要については、天王寺学舎でも企画会で検討し、12月の職員会議で中学・高校の全教員に配布して了解を求めた。その後も検討を重ね、平成30年4月の上宮学園中学校職員会議で最新版を配布、説明した。(学校概要を添付)

ii 広報関係

- ① 塾本部への説明

「上宮学園中学校」発足に先立ち、6月から簡単なパンフレットを自作して、教頭と入試対策部長とで11の塾本部を訪問した。

- ② 校内における入試説明会

ほぼ例年と同じ回数を実施した。

第1回入試説明会 9月2日(土) 14:00~16:00

体験学習会 9月9日(土) 9:00~12:00 (並行して入試説明会)

第2回入試説明会 10月7日(土) 10:00~12:00

プレテスト 11月5日(日) 一般学力 9:00~11:30 (並行して入試説明会)
適性検査型 13:30~16:00

プレテスト解説会 11月11日(土) 10:00~12:00 (一般学力テストの解説)

第3回入試説明会 11月25日(土) 14:00~16:00

- ③ 塾対象説明会

2020年度教育改革に当たっての上宮学園中学校と上宮高等学校の学校改革、および上宮学園中学校の内容について説明を行った。

- ④ 大阪私立中学校フェア

5月21日(日)大阪私立中学校高等学校連合会主催の大阪私立中学校フェア(大阪国際会議場)に参加した。個別進学相談、制服展示、パンフレットコーナーで出展した。63組を受付ける。

- ⑤ 私学展

高校と内容は同じ

iii 入試関係

上宮学園中学校の入試は従来の一般学力型（4教科・3教科・2教科）に加え、平成30年度は適性検査型（2教科 国語型・算数型の合計）を行った。

①入試日程

1月13日（土）午前 1次A 一般学力型
午後 1次B 適性検査型
1月14日（日）午前 2次 一般学力型

②入試結果

昨年度の1次入試出願者75名に対し、今年度は87名で前年度比116%、入学者も昨年度1次入学者60名に対し73名であり、前年度比121%となった。2次出願者は昨年度132名、入学者17名に対し、本年度は121名、入学者15名になっている。また、本年度初めて実施した1次B入試では48名が出願し、入学者は4名となっている。その結果、全入学者は昨年より14名増の92名となり、何とか3クラス編制となった。しかし、心配していた女子入学者については、29年より2名増加したものの14名であり、結果的にはGコースに共学クラスと男子クラスを作ることになった。女子生徒の割合は29年度の15%から変動はない。

平成30年度は何とか92名の入学生を迎え入れたものの、女子生徒の獲得が大きな問題になっていることには間違いない。25年度～28年度は18%～25%の女子比率であり、20～29名の女子生徒が入学していた。したがって、女子の減少分を従来の数へと挽回することが重要となる。次年度以降は女子入学者を30名とする目標設定をしたい。

平成31年度は上宮学園中学校として2回目の入試を迎えるが、入試方式に新たに自己推薦型を取り入れ、受験勉強はしていないが、潜在的な能力のある生徒の獲得に挑戦する予定である。

iv 教務関係

（1）学校評価の総括から（ ）内は自己評価

- ① 日々の行事運営 （B）
- ② 教務係との業務の連携、運営 （A）
- ③ 教員間の情報の共有・連携 （A）
- ④ 中高教務の連携 （B）
- ⑤ 会議や連絡会について （B）
- ⑥ 教務会の円滑な進行について （A）
- ⑦ 上宮学園中学校開設についての取り組み （B）
- ⑧ 六カ年を見据えた教育の充実 （B）
- ⑨ 校外学習及び総合学習の充実と積極的な取り組み （B）
- ⑩ 上宮学園中学入試の実施と諸問題の検討 （B）
- ⑪ 保護者会との協力 （A）
- ⑫ 部活動の充実に繋がる取り組み （B）

（総括）

以上の目標については、概ね当初の予定通り遂行できた。

上宮学園中学校の概要はおおむね出来上がったが、今後も上宮太子中学校・高等学校との打ち合わせを行い、両中学・高等学校で共通する行事を進めていかなければならない。また、自己推薦型入試の導入、プレテストの複数化、授業見学会（体験学習会に代わるもの）等、入試に関連する行事やその企画には継続して工夫を加える必要がある。

(2) 勉強合宿

① 中1が5月に行う勉強合宿（1泊2日）は平成24年度から実施しているが、平成30年度からは、4月初めの祖山参拝に合わせ、司馬遼太郎記念館訪問も含めて2泊3日のオリエンテーション合宿を計画している。

② 中1、中2の特進コースが行う夏期勉強合宿（2泊3日）は8年目となった。自学自習が早くから定着することと、将来の進学に自覚を持たせる目的がある。

③ 中3勉強合宿（2泊3日）は、2月に実施した。上宮高校入試問題も合宿2日目に実施したが、あまりよい結果を出せなかった。その動機付けをどのようにするのが今後の課題である。

(3) 中3修学旅行

平成28年度より、実施方面を東京、栃木方面へ変更した。東京での海外留学生との交流、キャリア教育の一環としての「フジテレビのお仕事」、鎌倉での判別自主研修、さらに栃木県大田原市での農家泊と多彩なプログラムをこなした。実施後のアンケート調査においては生徒には好評であり、教員の反省会でも、ほぼ目標を達成できたという意見が多かった。

しかし、平成30年度中3生は、中1学年からネイティブ授業をしていることから、その集大成としてシンガポールに行先を変え、ホームステイおよび現地の若者との交流を主とするプログラムを企画している。また、マレーシアにも足を延ばし、異文化交流を体験させる予定である。

(4) スキー実習

中1、中2は全員志賀高原スキー場にて3泊4日で実施した。インフルエンザ等で途中から離脱する生徒もいたが、雪質もよく、宿舎でインストラクターの話を聞けるなど、事後のアンケート結果においても生徒の満足度は高かった。

(5) 中3生対象のオーストラリア語学研修

3月末から4月初旬にかけての12日間。ケアンズにおけるホームステイを中心に、午前中は語学学校、午後はアクティビティからなる研修で、参加者からは好評を得ている。

(6) 中3生対象のイングリッシュキャンプ

平成27年度からイングリッシュキャンプと勉強合宿を同時に行うプランで実行していたが、平成29年度は諸般の理由で取りやめとなった。平成30年度3年生については、ネイティブ講師が学校にいることから、今までとは違った形式で校内イングリッシュキャンプに代わる英語授業を実施開する予定である。

(7) 上記以外の行事

① 中1：5月に冒険教育（日帰り）を実施

② 中2：8月に琵琶湖合宿（1泊2日）を実施

思春期教室（バルナバ病院で実施予定）は、インフルエンザが学年内に蔓延したことから28年度は中止した。

③ 各学年主導の校外学習

1年：司馬遼太郎記念館、奈良方面散策

2年：上町台地において班別自主研修、文化祭で発表

v 課外活動関係

◎柔道部

近畿中学校柔道大会

団体戦出場

個人戦 外村宗太 第3位

全国中学校柔道大会

個人戦 外村宗太 第5位

◎剣道部

近畿大会 団体3位

◎ソフトテニス部

全国大会 団体ベスト8

個人 第3位

近畿インドア大会

団体 優勝

個人 準優勝

◎ソフトボール部

全日本中学生男女ソフトボール大会 ベスト8

◎水泳部

近畿大会 個人出場 河合駿佑

全国大会出場 個人出場 田積帆乃果

ジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会 200平泳ぎ13～14歳 優勝 田積帆乃果

5. 上宮太子中学校

i 教務関係

① 学校評価

上宮太子高等学校と同内容

② 高大連携

上宮太子高等学校と同内容

③ ガンバリシステムの導入

- ・学力のみならず、自立した「生きる力」を持った生徒の育成
- ・達成によって得られる自己肯定感の育成
- ・生徒一人ひとりの良さや可能性を伸長
- ・生徒一人ひとりの学習意欲の向上
- ・一人ひとりの生徒が自らの良さに気づき、自主的に学ぼうとする態度を身につけさせる。

【ガンバリシステムの評価項目】

大項目	学 業		自己啓発		生活状況			資格		課外活動			
	模擬試験	ガンバリスト	図書館利用状況	自己啓発	勤惰状況	生活態度	家事・自立	漢字検定	英語検定	クラブ活動	生徒会活動	ボランティア	コンクール
小項目													

④ 教職員研修会

上宮太子高等学校と同内容

⑤ 特筆すべき行事

海外語学研修・聖徳書道展については上宮太子高等学校と同内容

その他

早朝テスト 朝礼時に実施することにより、授業への姿勢を整えさせ、学習習慣の定着を図る。

外部模試 全国的なレベルでの成績の比較

特別考査 日頃の学習の成果を見極め、校内での実力を確認する。

漢字検定試験 中学卒業までに2級合格を目標。

- 英語検定試験 中学卒業までに3級合格を目標。
- 英検講習 学年枠を越えた級別講習を、通常の補習・講習に加えて、検定日前に集中実施。
- 夏期学習合宿 中学1年生が7月下旬（終業式後）に2泊3日の日程で合宿を実施した。法然上人が修業された比叡山黒谷青龍寺を参拝、大津市内の宿所に入り一枚起請文暗誦及び英数国の学習に取り組み、合宿後の家庭学習の習慣も身に付けさせた。
- イングリッシュワークショップ 特別授業期間を利用し、外部講師を活用して中学2年生が全員を対象に英会話に特化した集中講座を3日間実施した。最終日には、吹田市にあるオオサカイングリッシュビレッジにて2日間の練習の成果を確認させた。

授業内小テスト・個別指導・添削指導など教科の特性を加味した指導を実施。
職員室前に質問コーナーを設け、生徒がいつでも質問しやすい環境づくりを設定。

学校行事

普段の教室での“知性を磨く”学習とは違った形で学び、違った環境の中で「感激・感動」を味わって、“感性を磨く”学習としての学校行事。普段、「吸収」した知識を、いかにうまく「発揮」していくかに繋げたい。“交流”“体験”“手づくり”を重視した修学旅行・文化祭（本校では上宮祭）・体育大会の他、独自の行事も実施。

- 祖山参拝 浄土宗の総本山である知恩院へ新入生が入学の報告
- 御忌式 校祖法然上人のご命日に当たる毎月25日の第1限に学校長より法話
- 校祖誕生会 校祖法然上人のお誕生の日に式典と講話
- 正当御忌式 校祖法然上人の祥月命日に式典と講話
- 修学旅行 (九州方面)
長崎大学での国際交流
長崎県五島列島の小値賀島での民泊体験
- スキー実習 中2学年が北信州木島平スキー場にて実施。スキー技術の習得・向上と共に、規則正しい集団生活を通して、お互いに助け合い、友情を深める。また、集合時間や健康などを自分自身で管理することにより、自主性と責任感の育成をねらいとする。
- 球技大会 生徒会起案で実施 生徒の自主性を養う。
- 体育大会 6学年縦割りの色別対抗 学年枠を越えて先輩・後輩の関係性の確立。上宮祭研究発表など多彩なクラス参加、または文化部の催し物を実施。
- 芸術鑑賞 夏期学習強化合宿 中1・中2は2泊3日、中3は3泊4日で実施
音楽、古典芸能、ミュージカル等「ホンモノ」の芸術に触れ、感性を磨くことを目的とする。

校外学習（二上山・葛城山・金剛山登山）

3 学年縦割り（体育大会時の色別チーム）で協力して頂上をめざし、最後まであきらめない忍耐力と協調性を高める。

3 年間で三山に挑戦する。

ii 課外活動関係

上宮太子高等学校と同内容

iii その他

特記事項なし